

みな の 歴 史 散 歩

No.3

出牛人形浄瑠璃

出牛地区の

人形芝居



社会教育担当 馬場

秩父地域には、いくつかの人形芝居が今でも傳承されています。そのなかのひとつが、「出牛人形浄瑠璃」です。

人形浄瑠璃って何？

そもそも人形浄瑠璃とはどんなものか皆さんご存じですか？人形浄瑠璃とは、浄瑠璃(三味線伴奏と語り)に合わせて、人形を遣う人形劇のことで、日本の古典芸能のひとつです。その歴史は、古く安土桃山時代に始まったとされています。

出牛人形浄瑠璃のあゆみ

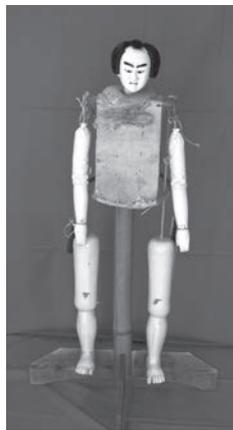
出牛人形浄瑠璃は、正確な起源は分かりませんが、舞台装置に安政二年(一八五五年)の銘があり、160年以上前には、上演されていたことが分かっています。

その後、大正五年(一九一六年)

の秩神社境内の興行を最後に50年間ほど上演は途絶えていましたが、昭和四十一年(一九六六年)に地元青年たちを中心に研究会が結成され、再び上演できるようになりました。

人形はどうやって操るの？

人形は「主遣い」「左遣い」「足遣い」の三人で操ります。「主遣い」は人形の首と右手、「左遣い」は人形の左手、「足遣い」は人形の両足をそれぞれ操ります。三人の息をぴったりと合わせることで人形が生きてきます。



出牛人形浄瑠璃は、秩父地域に伝わる伝統的民俗芸能として町指定無形民俗文化財に指定されています。また、人形芝居の道具一式は、保存状態が良好で、秩父地域における古典芸能を今に残す貴重な資料であることから県指定有形民俗文化財に指定されています。

5月5日(金・祝)の金沢地区つつじ祭りにおいて上演されるので、人形の生き生きと動く姿をぜひご覧ください。

第21回

金沢地区

つつじ祭り

期 日 5月5日(金・祝)

時 間 午前10時～午後4時

場 所 金沢秩神社境内

内 容 出牛人形浄瑠璃(傾城恋飛脚、餅つき大会、新口村の段)、餅つき大会、

舞踏、野点、フラダンス、ガス風船、富くじ

主 催 つつじ祭り実行委員会

